

会議状況等報告書		報告者	久納 勇司
会議の名称	第3回大府市緑化推進委員会		
日時	令和4年2月22日(火) 10時00分～11時30分		
場所	二ツ池セレクトナ 学習室		
出席者	樋口委員長、服部委員、櫻井委員、酒井委員、深谷委員、水谷委員、島田委員 近藤部長、深谷課長、深谷係長、久納主査		
欠席者	田中委員		
内 容			
<p>1. あいさつ (委員長) おはようございます。コロナ禍でまだまだどうなるかわからない中、皆様にはお集まりいただきありがとうございます。この委員会も一年前、パーティションを立てて厳戒態勢の中実施したことを思い出します。今日もコロナ禍ということではありますが、懸案事項として挙がっていた提案型緑花推進事業の見直し等を議事としています。今後の進め方について、もっと市民に活用してもらうためのポイントなどを、皆様のそれぞれのお立場でご発言いただければと思います。</p> <p>2. 議題 (1) 提案型緑花推進事業の見直しについて 事務局より概要を説明。</p> <p>(委員長) これまでに挙げた課題に対しそれぞれ方針を立て、ステップアップということを軸に、ビギナー・レギュラー・マスターという3つの部門を作って、なるべく申請者の負担を軽減し、入りやすくとっつきやすいような枠組みを提案いただきました。ご意見ご質問はございますか。</p> <p>(委員) ビギナーの場合に、アダプトプログラムとのからみはどうなりますか。</p> <p>(事務局) 今後どういうふうに新しい方を発掘していくかということですが、アダプトプログラムはどちらかというと清掃の団体がメインですので、例えばそういった団体に、清掃に加えて花植えをやっていただくとか、緑花推進のことを少しずつ説明させていただきながら、アダプトプログラムプラス提案制度で緑を増やしてもらう形をとりたいと考えています。既にアダプトプログラムで花を植えていただいている方には段階的にステップアップしていただき、もう少し仲間を増やして幅を広げませんか、というイメージを持っています。</p> <p>(委員) アダプトプログラムで緑花をしている団体や個人のデータベースがあればもっと進めやすくなるかと思います。アダプトプログラムでも清掃のみの団体もあると思うので、緑花をしている団体の数が分かるとよいと思います。</p> <p>(事務局) アダプトプログラムの情報については、担当課と連携して得るようにしています。その中から声掛けさせていただいて、提案制度を活用していただければという案内をしていきたいと考えています。</p> <p>(委員長) 今の質問に関連して、対象のイメージについて、現状事務局が考えているそれぞれのステージに合う層や、投げかけたい対象があると思うので、その点についてもう少し説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 今、シビックガーデンコンテストを毎年春先にやっています。委員にも審査員をしていただいているが、その中で、団体で緑を増やす活動をしていただいている団体がござ</p>			

います。その方たちは自分たちで活動してシビックガーデンコンテストに応募していただいているが、何年もやっていただいている方もいるので、継続的に活動していただけるように、シビックガーデンコンテストからは外れてしまうかもしれないが、提案制度をご案内したいと考えています。

(委員長) その方たちはレギュラーコースを想定していますか。

(事務局) はい。何人かの団体でやっている方もいらっしゃいます。

(委員長) その団体の数は。

(事務局) 2団体は確実にあります。ただ地域貢献として活動しており、提案制度にそぐわないといわれる団体もあるかもしれませんが、我々としては、今までの活動を継続していただきたいし、地域として自分たちで続けていく、という団体もあります。多種多様な状況だと思えますが、そういった団体を発掘しながら少しずつ声掛けしていきたいと思えます。新しい団体というと、アダプトプログラムをやっていただいている方たちを考えています。

(事務局) 補足をします。ビギナーコースで想定しているのが、皆様も街なかで見られたことがあるかと思いますが、街路樹の根本に花がポツポツと植えられているようなところがあるかと思えます。私がイメージする限りでも10箇所くらいはありますが、そこは大抵近所の個人の方が草取りのついでに種をまいたり、小さな苗を植えたりしてやってくださっている方がいます。もう少しきちんとやっていらっしゃる方もみえる。そういう方々に、私が係長の時代に、声を掛けに行き、花苗を提供しますよ、協力しますよと声を掛けさせていただいたが、その頃は、好きにやっているだけだから必要ない、気にしなくていいよという方が結構いらっしゃった。ただ、そこから10年経つと、高齢になったり、やらなくなってしまった方もいらっしゃるし、新たに始めた方もいらっしゃる。そういう方々に対して、1万円以内の材料を提供させていただいて、小さな緑花が広がればいいというのが、このビギナーコースのイメージです。その次に、活動しているうちにコミュニケーションが広がって、仲間ができて、何人かでどこかでやりたいねとか、公園に少しこの辺に植えたいねという声が出てきたときに、レギュラーコースとして、もう少し面積の広いところがやれば、そしてアダプトプログラムでも、掃除だけではなくて、取った草のところに苗を植えてくれるということができればということで、もう少し広めな活動につながっていくというのがレギュラーコースのイメージです。そして、そこからさらに大きな形になっていくと、今、大府コミュニティさんがやっている緑花や、BT木の山さんがやっている緑花など、大きな形での継続的な緑花活動につながっていくということで、こういった形でつながっていけばいいなと思うのですが、ただビギナーからレギュラー、レギュラーからマスターへのハードルは高いので、そこをどうやって我々、緑化推進委員会の皆様も含めて、どうやってサポートしていくかというのが、これからこの事業が根付くかどうかというキーポイントになっていくかと思えます。今は、とりあえず本当に個人的な活動をしている方にビギナーコースを紹介させていただいて、少しでも裾野が広がればと考えています。

(委員長) 今の展開のイメージや対象のイメージを頭に入れていただいて、今後事業を行っていく上での、委員会との関わり方や、4～5ページで案がありますが、こういった案で届くのかということも含めて、忌憚のないご意見をいただけたらと思います。

(委員) せめて委員のメンバーには、現状どのくらいのチームや団体があるか数だけでも知りたい。数が増えてれば関心度が増しているということが、委員にもわかるが、今の状況では把握できない。

(委員長) 今のご指摘についてはその通りかと思えますし、基本計画の評価の指標やデータにもなり得ることなので、活動の実態をしっかりと現状を押さえていただいて、提案してきた時の増え幅など、そういったことを細やかに把握しておくべきではないでしょうか。

(事務局) 来年度、ビギナーコースについては随時だが、第1回目の委員会には提案を出してもらうことになるため、議事録を送る時には、どれくらいの団体がみえるかという数をお示できると思えます。あとは、公表されている方とそうでない方がみえるので、その辺りは精査させてもらうかもしれません。議事録とともに送らせていただきますので、よろしくお

願います。

(委員) このたびビギナーコースを設けたということは、申し込みの敷居が低くなって、参加者も広がるんじゃないかなと思います。申し込みの申請期間が随時受付と書いてあるのですが、先着10組ですよね、その辺の期間がなんとなく不明瞭のように感じて、受付期間が長いということは、日数が足りていくのかなとかもちょっと思ったりしました。それとあと、申請があった段階で、今SNSとかフェイスブックとか皆さんやっている方がいるんですけど、緑花推進事業を、ハッシュタグをつけて、何回かアップしてもらおうなど、活動を幅広く紹介してもらおうのをお願いしてはどうかと思います。SNSができる人とそうでない人がいるので、強制は難しいと思いますが。また、緑花推進事業で植えられた花壇であることがわかるプレートなどがあると、興味がある人への情報発信につながると思います。プレートに申請要綱やQRコードなどがあると、広がりも増していくのではと思います。

(事務局) SNSについて、ご提案ありがとうございます。市としても、広報に載せれば、必ずウェブサイトにも載せておりますが、皆様が大府市のウェブサイトを見に行くかということ、なかなか見に行かないという現状があります。あとは、インスタグラム、ラインなど市の持つSNSの情報がありますので、そういったところを活用できるのかなと思っております。それから、プレートへのQRコードの掲載について、良い提案だと思いますので、来年度からでもやれるかなと思いますので、検討していきたいと思います。それから一番最初にご質問いただきました、期間と組数についてですが、我々も悩んだのですが、他のコースと同じ期間で募集した時に、どれだけの募集があるか手探りのところもあるので、上限を決めさせていただいたうえで、期間は一年間みようかと思っています。ただ、申請期間の終わりが2月末なので、実際に花を植えて実績報告をするということを考えると、2月までには申請いただいて、3月には植えて、4月に咲く花までかなと考えております。この辺りは、手探りのところもありますが、二年後三年後には、例えば前期後期のように、予算のことも考えながらやっていけるかなと考えております。まずは、期限は一年で、先着順で取り組んでみようと考えております。

(委員長) SNSの活用についてはぜひ願います。私も今回、シビックガーデンコンテストの写真をインスタグラムでもいいのでアップするような仕掛けを、現状やられていないということなので提案しようと考えていました。この事業で写真をアップするということは非常に良い提案だと思います。例えば、ハッシュタグを一つ決めておいて、例えば「花いっぱい大府」とか、みんながとっつきやすいハッシュタグを緑花事業をやるときのハッシュタグにして、提案型緑花推進事業やシビックガーデンコンテストなど、いろんな取組をハッシュタグをつけて投稿してもらおうような仕掛けは、非常に有用ではないかなと思いますので、ぜひ検討いただきたいと思います。

(委員) 市のインスタグラムで、おおぶスタイルというものがあるので、その中の緑花関係で、こんなところがきれいだよ、というふうに紹介して、充実していただければと思います。

(事務局) 大府市のインスタグラムのおおぶスタイルは、それぞれの所管課ごとにやるとバラバラになってしまうということもあるため、良い情報があればインスタグラムの担当課へ写真を提供したり、写真を撮りに来てもらったりしています。以前、二ツ池公園の増田池と平戸池の間から西の方を見たら、夕陽がとてもきれいに沈んでいくところがあって、担当課へ報告したらすぐに写真を撮りに行って掲載してくれたこともありました。そういった即効性は、インスタグラムやSNSは十分あると思いますので、我々の方から情報提供やハッシュタグを決めれば、見ていただける方が増えると思います。

(委員) 対象経費の花の苗は、種類は選べるのですか。樹木は入っていないのですか。

(事務局) 苗の種類は、手探りの部分もあるので、最初に考えていたのは、パンジーなど候補の中から選んでもらって1万円までとする方法も考えたのですが、やはり花の好き嫌いや、これがないと、という方もみえると思うので、6ページの提案書の花苗のところ、一番右に備考欄を設け、希望があればここに書いていただければいいかなという形を考えました。もし提供できないものがあれば、「準備できないので他の物を」というやりとりも出てしまうかと思っています。モデルとして例を示しながら、希望の物があれば備考欄に書いていただい

りとりする、というイメージになります。これについても流れができれば、花苗の種類は固定でいけるなどか、広く希望を聞いた方がいいかなというように、運用で変えていくことは可能ですので、手探りですが始めたいと思います。時期も一年にしたので、花の種類も変わってくるということもあると思います。樹木についても検討はしましたが、大きくなって管理が大変であり、それが原因で逆に離れていってしまうと本末転倒かなと思いますので、今のところは樹木については考えておりません。

(委員) 4・5ページのチラシですが、どこでもらえるのでしょうか。

(事務局) まずは、地域の方が集まる公民館には必ず配ろうと考えております。あと、ビギナーコースについては、例えばスーパーなどに貼らせてもらえるのかということも含めて、広く皆様の目につくような形ができればと考えています。

(委員長) 一つの対象としては、地域をお考えなのかもしれませんが、例えば学校関係やPTA関係の広がり
の可能性は考えられますか。

(委員) あると思います。

(事務局) PTAで学校の緑花の活動をするのもこの事業でできます。花や植物、自然に興味がある方が集まる場所、例えばこのセレクトナのような施設にも置かせてもらいたいと思います。商工会議所や企業にもPRできるかと思っていますので、声掛けしていく予定です。

(委員) 今、大府コミュニティでは認知症のオレンジガーデンを去年の9月から取り組んでいます。良い取り組みで、家庭でもできることなので、プランターにオレンジ系の花苗を植える活動を始めました。これもひとつの緑花事業に入ってくるので、そういったことも含めた展開もできたらなと思います。コミの費用でやっていますが、そういうふうに援助していただければと思います。

(事務局) 対象の場所が公共用地になるので、道路など、そういった所でやっていただければ対象となります。

(委員) 宣伝をどうするかという点で参考なのですが、私どもの事業を宣伝するのに、横根公民館地区と今、密接に動いています。生涯学習委員会に私も委員として参加しています。回覧板に載せるということが可能かということで、「つばさ」という新聞を横根山地区は回覧板で出されていて、それにセレクトナの事業を載せてもらえないか、ということになり、今では定期的に2か月に1回掲載しています。回覧板はまさに地元に着のりなので、全部の公民館地区に回覧板のシステムがあるかどうかわかりませんが、ぜひそういうものに載せていただいたら、情報が広がっていく気がします。

(事務局) 色々なご意見いただいたので、活用できるところでPRしていきたいと思います。

(委員長) チラシの趣旨が、どこをターゲットにするかで出し方が変わってくるということを懸念しています。今の状態は、最後のマスターを見越した最大20万を広報するチラシになっていますが、最初のビギナーをターゲットにするなら、小さい単位でも補助できるのでぜひ、というところがメインになるので、紙面の工夫が必要と感じます。

(事務局) ちょっと派手すぎましたね、最大20万円が表に大きく出てしまっているのです。チラシのレイアウトを再考します。

(委員長) ターゲットを明確にして、もう少し情報量を少なくするとわかりやすくなると思います。

(事務局) 承知しました。ありがとうございます。

(委員) すごい進歩ですね。

(委員長) そうですね、良い提案だと思いますので、ぜひ育てたいなという想いがあります。

(委員) コースの題名のビギナー、レギュラー、マスターですが、ビギナーだと、みんなで始める一歩とか、もう少しイメージが湧くような名称にすると親しみやすいのかなと思います。

(事務局) 良い案があれば、ご提案ください。

(委員) ビギナーは「みんなで一歩踏み出そう」とか、マスターは「地域を盛り上げよう」とか、イメージにつながる名称が作れるといいのかなと思います。

(事務局) ビギナーとレギュラーとマスターに、注釈をつけるような形でもいいかもしれませんね。

(委員) ビギナーとレギュラーとマスターに括弧をつけるのはどうか。初級中級上級などに括弧をつけるとか。

- (事務局) もう少し具体的に説明するようなものを付けられるように考えます。
- (委員) そうですね、言葉でイメージがわくようなものが一番いいのかなと思います。
- (委員) 片仮名にこだわっているのではないかな。はじめの一步などいいなと思いました。
- (委員) ビギナーと言葉を聞いた時に一瞬考えてしまった。これ何だったっけと。
- (委員) はじめの一步やりませんか、とかね。
- (委員) わかりやすくして良いですね。聞くだけで、ああそういうことを求めているんだということがわかりますね。
- (事務局) レギュラーは何にしましょうか。
- (委員) マスターは、地域を盛り上げよう、がとても良いと思います。その間は何でしょうか。
- (委員) おうち時間が多くなったから、お花をきれいにやろうという人も多くなっています。
- (委員) はじめのひと苗、などはどうでしょうか。広がるひと苗、とか、広げるひと苗、とか。
- (事務局) レギュラーは「広げる」をキーワードにしましょうか。
- (委員) 明るい未来が見えてきましたね。
- (事務局) 皆さんのおかげです。ありがとうございます。
- (委員長) 細かいのですが、3ページの表3の左側のタイトルで、申請書という行がありますが、申請書類のことでしょうか。一番最後の※印の二つ目ところも、申請書類に修正してください。
- (委員長) 建設的な未来へ向けての前向きなご意見をたくさんいただいて、大変楽しい議論が進みましたが、ぜひ広報の素材？については事務局の方で検討いただいて、委員の皆様には事後報告になるかもしれませんが。
- (事務局) またアイデアがあれば教えてください。
- (委員長) ご意見いただければと思います。
- (事務局) まとめさせていただきます。まず、提案型のプレートやQRコードを貼ることは今後やっていきたいということ、SNS等でのハッシュタグで、しっかりPRするものをやっていきます。それから、チラシを配るところは公民館であったり、PTAにも行き渡るような方策をしっかりと考えていきたいと思います。あと、チラシはターゲットを絞ってやっていくことと、コースの言葉についても、もう少し皆さんがとっつきやすい柔らかくなるような、行政の固い言葉でなくなるように努力します。

(2) 令和3年度の事業について
事務局より概要を説明。

- (委員長) 何かご質問はありますか。
- (委員) 大倉・桃山公園のさくらまつりとか、商工会議所でいうと石ヶ瀬川のサクラとか、あと、3月19日頃から4月10日までイベントをやります。緑花に関する行事はもう少し連携して、提案して欲しいなと思います。
- (事務局) 毎年、いろいろな地区でさくらまつりなどをやっていただいております。ご協力いただきありがとうございます。我々としては、昨年大府市サクラMAPを作製しましたので、市民の方のお手元で見いただいている方と、そうでない方がみえると思うので、PRする場があれば、我々が大府市サクラMAPを持って出向いて行って、大府市内のサクラをPRすべきなのかなと考えております。いろいろな活動をやっているということをしてできるだけ市民に知ってもらう必要があると思いますので、もう少し活用については我々も取り組んでいかなければならない点だと考えています。
- (委員長) それぞれの公園での祭りの開催主体は。
- (委員) 商工会議所に一本化しています。おおぶ桜ハナモモ花めぐりという、約一か月間くらい開催しています。イベントはできませんが、歩いて巡ってもらうことができます。もうすぐチラシが配られると思います。
- (委員長) 主体は商工会議所でやられているということですね。情報発信を共有して広がるといいですね。
- (委員) 桃山公園の場合は、商工労政課が取り組んでいます。

- (委員長) そのあたりを、情報共有していければいいかなと思います。
- (委員) 2番の桜守養成講座についてですが、2月18日に参加させていただきまして、松井先生がすばらしいお話をさせていただいて良かったのですが、今後はどういう方向に進めていくのでしょうか。
- (事務局) ご自宅にサクラがある方で剪定方法など自分で世話をしたいという方はもちろんですが、ゆくゆくは、例えば街路樹で植わっているサクラだったり、公園に植わっているサクラだったり、元気がないので世話をしたいという方がみえれば、例えば団体を組んでもらって、さきほどの提案制度で提案していただいて、お金のかかるものは提案制度で購入してもらって、永く世話をさせていただいたり、そういった団体ができるといいなと期待しています。そううまくはいかないかもしれませんが、ゆくゆくは大府市のサクラを市民、行政、企業などが大切にしていこうということが理想的なゴールと考えています。
- (事務局) 松井さんが関わった豊橋などで、公園など色々なところでの積み重ねがあったうえで、皆さんが団体を作られたとのこと。この間のように2月の中旬に講座をやると、枝を少し持ち帰って、水に差して花を楽しめるだとか、そういった少しでも付加価値があると、楽しんでやっていただける人もいるかと思えます。小学校の卒業式の前に、うまく剪定をして、卒業式にあわせて花を咲かせる、ということもされるようです。例えば6年生のために5年生が校内にあるサクラの枝を剪定して、渡すというような取組などもおもしろいアイデアかと思えます。
- (委員) 私も数本いただいてきたので、咲くのが楽しみです。
- (委員長) そういった可能性というか対象を整理していただけると、他への展開を議論したり検討できる。
- (事務局) こちらにもある11月24日の講座ですが、北山公民館のシダレザクラを剪定したのですが、これは地域の人たちが、シダレザクラが春になっても上の方が咲かないという状況を危惧してみえて始まった講座です。桜を愛でる会に相談したところ松井先生を紹介していただいて、サクラの世話を地域としてやりましょうということになり、2回ほど実施しました。今年来年と、上の方が枯れていたシダレザクラが咲くようになればいいなと思います。セレクトナでもイベントでシダレザクラの維持管理の講座を、やっていただいておりますので、そういった積み重ねをがんばってやっていければと思っております。
- (委員長) 各地域、サクラが盛んな地域が明らかなので、そういった地域とうまく連携していけるといいのかなと思います。
- (委員) 愛でる会があれば、そこを拠点に、一度ではできないので、今月はここ、という風なやり方をしていかないとできない。僕らのハナモモでも、げんきの郷を含めて1200本あるのですが、全てできる訳ではないです。全部チェックして、地区ごとにわけて、植えたオーナーさんに来てもらって、こちらが指揮して剪定のやり方を皆さんに知ってもらおうというやり方でやっている。ただ漠然とやるのは絶対に無理なので。今回は北山地区、という感じでやっていかないと絶対にできない。
- (委員長) そのあたりのノウハウもぜひ共有しながら、良い仕組みが整ってくればと思います。その他はありますか。では次の議題にまいります。

(3) 令和4年度の事業案について

(事務局から説明)

- (委員) フジバカマのところで紹介されている環境パートナーシップ会議委員とはどんな委員でしょうか。
- (事務局) こちらは市の環境課が所管しておりますが、大府市だけではなく、知多半島にアサギマダラを呼ぼうということで、知多管内で協力してフジバカマを株分けして植えて、台湾から飛来するアサギマダラに知多半島に立ち寄って休んでもらおうということをやっております、その会議体のメンバーになります。今年だと、知多市、武豊町、

- 南知多町で活動している方が、今年はセレクトナに集まっていただいて会議をしました。
- (委員) フジバカマを増やす活動というのは、地域や一般の人にも広めていく方向ですか。
- (委員) もともと市がやろうという話から始まって、それが知多半島に広がって行って、今年は南知多の方まで知多半島の全部の市町が入るのではないかという形になっておりまして、ここセレクトナに集まって会議を2回開催して、いろんな市町の人と意見を交換しています。フジバカマが無謀な広がり方をしないように注意しながら広めていくということをやっています。その中で大府市としては、闇雲に広げるのではなくて、環境を考えながらということなので、基本的にプランターの中で植えるようにしようという指導をしています。その会議がある中で、2月3月になるのですが、株分けに参加してもらおうということで、今年も環境課がチラシを作って募集するようです。その会議の集まりが環境パートナーシップ会議です。
- (委員) 環境パートナーシップ会議はフジバカマだけではなく、環境全体の会議ですね。その中の一つの事業としてフジバカマの活動があるということですね。
- (委員) そろそろチラシが出るはずですよ。参加者は大府市限定となっていました。
- (委員) プランターに植えて、みんなで株分けをして、地域で増やしていこうという。
- (委員) そうです。はじめの一步は、今年だと3月27日に集まって、株分けしたものを植えるという作業と、持って帰っていただくという、二通りあると聞いております。
- (委員) 3番の(4)河川を活かしたまちづくりのモデル地区ですが、前にキッチンカーとヤギの除草パフォーマンスに行きたかったのですが、行けませんでした。こういったことは、また行う予定でしょうか。
- (事務局) コロナでどうなるかわかりませんが、キッチンカーは先週からまた同じ場所で行っています。キッチンカーは毎週金曜日3月までの予定です。ヤギは、3月くらいになったら呼ぶ予定なので、ぜひご活用ください。暖かい時期は結構好評のようで、最初は3店舗の予定でしたが、5~6店舗出店していました。
- (委員長) このモデル事業の事業主体はどこか別の課ですか。
- (事務局) 基本的には水緑公園課です。駅の前で、きれいな緑道や飛び石を作った周りをいかに保全していくかという中で、地域の方にもご協力いただいて、何か活動できないかかというところで、いろいろ取り組もうとしています。コロナで人が集まることのできないので、見送りになっていますが、少しずつ手掛けていきたいと考えております。
- (委員長) ぜひ定着して広がりが増えてくるといいですね。
- (事務局) バイオリンの演奏も一度行いました。オミクロン株がなければそのまま実施できたのですが、オミクロン株でいきなりまた自粛になってしまいました。
- (委員) 商工会議所青年部の関連ですか。
- (事務局) 商工会議所の商業部門の中にキッチンカーをやっている方が何人かみえるので、その方たちに協力していただいています。
- (事務局) キッチンカーの話で、ここには載せていませんが、大府みどり公園の方もキッチンカーを並べると、ミモザ、サクラ、ゴールデンウィーク、夏のじゃぶじゃぶ池という風に、四季折々皆さんに来ていただいているので、そういったところにも何か来て喜んでもらえるようなものをプラスアルファできるように、今の鞍流瀬川で試験的にやっているキッチンカーのように、大府みどり公園でもやってもおもしろいという声をいただいたので、先週出店できるようにお願いしていたのですが、コロナの感染者が一日に100人も出ている状況なので、今は延期しています。そんな取組も少しずつやっています。
- (委員長) ぜひSNSを使って、市民の皆様にも広く知っていただいてやってもらえるといいかと思えます。
- (委員長) 次回、来年度の第1回の時に、提案事業の評価をするのですが、その時に事業案についてなかなかお話しする時間が取れないということで、洗い出しをして事業案としてご提案いただいています。少し気になったのは、基本計画の方で施策が並んでいて、継続的にやっているものと来年度やるものの、時系列との関係が、さきほど委員から桜守の事業をどう進

- めて行くのかというご指摘もありましたが、タイムスパン的な位置づけが、今回の資料ではわからないので、次回の委員会でそのあたりの事業の位置付けの方も分かると非常にいいと思いますので、ぜひそのあたりを調整いただければと思います。それから、個人的には、大府市の緑の基本計画自体すごくいい計画ができているという実感があるのですが、計画自体の評価というか、他の市町村に比べて充実しているという県の評価はありますか。
- (事務局) 今年の公園緑地課長で、昨年主幹であった稲吉課長が、毎回策定委員会に来て、ガンガン意見を言って叩いていただいたので、出来はいいと思っています。他のところと比べても遜色ない良い形でできたと自負しています。それは県の方も評価はいただいている。ただ、コンテストをやるわけではないので、他の市と比べていうわけではないですが、県の稲吉課長からは評価いただいています。稲吉課長は今回、大府市の景観計画にも参加していただいている、本来は課長補佐が出席のところ課長が自ら出席していただいているので、大府市のことは気合を入れてみてくださっていると感じています。
- (委員長) ぜひ桜守や、竹林の小径もそうだし、河川のモデル事業もそうだし、大府市らしさというか、大府市ならではの緑花の取組が根付いていく、そして、満足度の向上が最終の一つの目標ではあるので、そのあたり大府市らしさというのを、かなり事業・施策が広いので、事務局の方は大変だろうなという想いはありますが、重点施策も含めて、そのあたりを継続的にこの委員会で評価・管理してまいります。以上が本日の議題です。